

平成27年(行ウ)第736号  
 もんじゅ設置許可処分取消義務付等請求事件  
 原告 中嶋哲演ほか104名  
 被告 国

## 証 拠 説 明 書 (5)

(甲第82号証～甲第94号証)

平成28年12月1日

東京地方裁判所民事第3部A2係 御中

原告ら訴訟代理人 弁護士 海 渡 雄 一

同 弁護士 河 合 弘 之  
 ほか

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年 月 日	作 成 者	立 証 趣 旨	備 考
甲82	「さようなら、もんじゅ君 高速増殖炉がかたる原発のホントのはなし」(抄, 表紙・奥付・履歴書・67～106頁) (写し)	H24.4.20	著:もんじゅ君 監修:小林圭二	もんじゅ特有の危険性。具体的には, ①ナトリウムの危険性 ・酸素と激しく化合すること ・水と激しく反応すること ・薄い配管でなければならないこと ②暴走しやすさ ・燃料棒同士の隙間が狭く冷却材が流れない危険が大きいこと ・燃料同士が近づくほど核分裂しやすいこと ・ナトリウムの沸騰で発生する泡(ボイド)が核分裂を加速すること ③プルトニウムの危険性 ・プルトニウムが肺から血液に取り込まれて骨や肝臓に移動してしまうと, 排出されにくくなること ・プルトニウム239の半減期	

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
				<p>が2万4000年と極めて長いことから人間の生きている間に体内に留まっているプルトニウム239の力が弱まることはないこと</p> <p>・体内にある間中、アルファ線を放出して、すぐそばの臓器や血管を傷つけ続け、がんや白血病を引き起こすことなど。</p>	
甲83	「国際化学物質安全性カード 酸化ナトリウム」(写し)	H18.10	国立医薬品食品衛生研究所	<p>①酸化ナトリウムに暴露すると、眼、皮膚、気道がやけどし穴が開くなどすること、</p> <p>②エアロゾルを吸入すると肺水腫を引き起こすことがあることなど。</p>	<a href="http://www.nihs.go.jp/ICSC/icss1653c.html">http://www.nihs.go.jp/ICSC/icss1653c.html</a>
甲84	「国際化学物質安全性カード 炭酸ナトリウム」(写し)	H16.10	国立医薬品食品衛生研究所	<p>炭酸ナトリウムに暴露すると、眼、皮膚、気道を刺激され、また鼻中隔穿孔や皮膚炎を起こすことがあることなど。</p>	<a href="http://www.nihs.go.jp/ICSC/icss1135c.html">http://www.nihs.go.jp/ICSC/icss1135c.html</a>
甲85	「国際化学物質安全性カード 水酸化ナトリウム」(写し)	H22.5	国立医薬品食品衛生研究所	<p>水酸化ナトリウムを吸い込んだり、経口摂取したり、目や皮膚についたりすると、眼、皮膚、気道がやけどし穴が開くなどすること。</p>	<a href="http://www.nihs.go.jp/ICSC/icss0360c.html">http://www.nihs.go.jp/ICSC/icss0360c.html</a>

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
甲 8 6	「メルクマニュアル医学百科 家庭版 腐食性物質による中毒」 (写し)	H21.9	MSD	腐食性物質（強酸やアルカリ）を飲みこむと、舌、口、食道、胃にやけどを負う。やけどは食道や胃の穿孔（穴が開く）の原因となる。穿孔した部分から食物や唾液が漏れると、胸部（縦隔炎または気腫）や腹部（腹膜炎）に重い、命にかかわる感染症を起こすことがある。腐食性穿孔にならないやけどでも、食道や胃に瘢痕（はんこん）が生じることがあること。	<a href="http://mercmanu.als.jp/home/外傷と中毒/中毒/腐食性物質による中毒.html">http://mercmanu.als.jp/home/外傷と中毒/中毒/腐食性物質による中毒.html</a>
甲 8 7	「「もんじゅ」に関する市民検討委員会 提言書」（抄、表紙・目次・21～25頁）（写し）	H28.5.9	「もんじゅ」に関する市民検討委員会	もんじゅにおいて想定される放射性物質放出事故。具体的には、次のとおり。 ①地震によって、一次系配管が損傷し格納容器の気密性が破られることで発生するナトリウム火災と同時に、ナトリウム火災の熱で格納容器の内圧が上昇し、格納容器が破壊されることで、放射性物質が放出される事故、 ②地震によって、配管が損傷し、ナトリウムが漏れ出て、炉心冷却不能となることで、炉心の温度は上昇し、炉心溶融に至り、放射性物質が放出される事故、 ③炉心を流れる冷却材の流量が一挙に減少した時に制御棒の挿入の失敗が同時に起きることによって、原子炉が一挙に暴走し、放射性物質が放出される事故、 ④地震や高温ラプチャ現象によって蒸気発生器伝熱管が多数破損することによって、激し	

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
				いナトリウム-水反応が起き、発生する水素ガスによる圧力上昇によって中間熱交換器等が損傷を受け、水素ガス(気体)の混入した2次系冷却ナトリウムが中間熱交換器の障壁を破って1次冷却系に流入し、炉心が出力暴走を起こし、放射性物質を放出する事故。	
甲88	「もんじゅ事故の行きつく先は？」(写し)	H8.4.22	高木仁三郎	もんじゅは運転温度がセ氏500度を超える高温となることから、温度の上昇とともに配管が伸び、運転を止めると縮むので、まっすぐの配管にできない。そこで、自由に伸び縮みできるように、曲がりくねった配管となっていることなど。	
甲89	DVD 「もんじゅ 問われている叡知 もんじゅ明かされた真実 合作ダイジェスト版 DVD 26分」(写し)		ス ト ッ プ・ザ・も んじゅ 監督:能勢 太郎	①もんじゅの設備概要 ②暴走しやすさ ・燃料同士が接近、接触すると暴走しやすくなること ・ナトリウムの沸騰も暴走を進めること、暴走スピードは通常原発の250倍であること ・暴走が始まると制御が困難であること、暴走を止める仕組みは制御棒のみであることなど、 ③ナトリウムの危険性 ・ナトリウムは水や酸素と激しく反応すること ・蒸気発生器の中ではわずか数ミリの管を隔ててナトリウムと水が存在すること、 ④曲がりくねって薄い配管 ・熱によって伸びる力を逃すためには曲がりくねった配管でなければならないこと ・急激な温度変化に耐えられるようにするために配管は薄く	

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
				<p>なければならないこと、</p> <p>⑤プルトニウムの危険性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耳かき1杯の量で数十万人を殺せるほどのものであること</li> <li>・もんじゅには1.4トンも入ること</li> <li>・半減期2万4000年であること</li> <li>・プルトニウム輸送中に交通事故、海難事故に遭遇する危険があることなど、</li> </ul> <p>⑥敦賀湾で巨大地震が起きた場合、もんじゅでナトリウムが漏れ、火の海となり、炉心溶融し、プルトニウムや放射性ナトリウム、その他の放射性物質が広範囲に拡散し、琵琶湖や京阪神などを長期間にわたって汚染することになること、被曝によって世代を超えて後遺症を引き継ぐことになることなど。</p>	
甲90	「ロシアにおける法的取り組みと影響研究の概要」(写し)		イ ー ゴ リ・A・リ ャプツエ フ 今中哲二	ロシアにおけるチェルノブイリ原発事故の避難基準・汚染地域の設定内容等。	<a href="http://www.rri.kyoto-u.ac.jp/NSRG/Chernobyl/saigai/Ryb95-J.html">http://www.rri.kyoto-u.ac.jp/NSRG/Chernobyl/saigai/Ryb95-J.html</a>
甲91	「ベラルーシにおける法的取り組みと影響研究の概要」(写し)		ウラジー ミル・P・ マツコ 今中哲二	ベラルーシにおけるチェルノブイリ原発事故の避難基準・汚染区域の設定内容等。	<a href="http://www.rri.kyoto-u.ac.jp/NSRG/Chernobyl/saigai/Mtk95-J.html">http://www.rri.kyoto-u.ac.jp/NSRG/Chernobyl/saigai/Mtk95-J.html</a>

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
甲 9 2	「ウクライナでの事故 への法的取り組み」(写 し)		オレグ・ナ スビット 今中哲二	ウクライナにおけるチェル ノブイリ原発事故の避難基 準・汚染区域の設定内容等。	<a href="http://www.rrri.kyoto-u.ac.jp/NSRG/Chernoby/saigai/Nas95-J.html">http:// www. rrri.ky oto-u. ac.jp/ NSRG /Cher noby/ saigai /Nas9 5-J.ht ml</a>
甲 9 3	「サイレントウォー 見えない放射能とたた かう」(抄, 表紙・奥付・ 94～101頁) (写し)	H24.11.20	今中哲二	①急性死のメカニズム, 被曝量 と急性死率。 ②晩発性障害の内容。	
甲 9 4	「高速増殖炉ー過去。現 在・未来」(写し)	H17.3.22	小林圭二	① 1966年にアメリカの高 速増殖炉フェルミでは, 燃料棒 同士の隙間がふさがれ, ナトリ ウムが熱を運び出せず, 燃料が 高温になって溶けて炉心溶融 事故が起きたこと, ② 1955年, アメリカのアイ ダホ州に高速増殖炉EBRー 1において, 緊急停止ボタンを 押すべきであったのに, 間違え て普通の停止ボタンを押した 事故では, 止めるのがたった2 秒遅れた間に, あっという間に 出力が上がり暴走し, 炉心の半 分近くが溶けてくっついてし まったこと。	<a href="http://www.rrri.kyoto-u.ac.jp/NSRG/seminar/No100/kobayashi050322.pdf">http:// www. rrri.ky oto-u. ac.jp/ NSRG /semi nar/N o100/ kobay ashi0 50322 .pdf</a>